

# マルセイニュース 9月号

発行日 2017/9/22  
株式会社 マルセイ  
浦河町東町うしお1丁目  
〒057-0005 TEL0146-22-5123



9月17日 常盤町自治会のこども神輿



「昭和37年 浦河神社祭」 写真協力 浦河町郷土博物館

## 今も昔も、願いは同じ。今年も豊作豊漁でありますように！

浦河神社の例大祭が終わると浦河も本格的な秋を迎えますね。どうか、豊作豊漁、家内安全、商売繁盛、そして皆さまが健康でしあわせな毎日を過ごせますように。



仲良く暮らしたいね



鮭が獲れますように！



大人気の餅まき終了～



子どもたちの御神輿



9月17日 「粹属」による神輿渡御



ルピナスの丘からの夕日



安全と豊漁祈願



ルピナスの丘に咲くコスモスとダリア

風景写真は、町内在住カメラ愛好家の協力により掲載

1、神輿渡御(みこしとぎょ)も山車も、たくさんの町の人に支えられて台風の雨にも当たらず無事に終わりましたね。みなさんお疲れさまでした^^





当社 株式会社マルセイ会長が死去  
こやましげる

小山蔚会長、安らかに眠りください

今月は、故・小山蔚の追悼号のような内容になってしまうことをお許しください。この4年あまり、病気を抱えつつも生きる希望を捨てずに頑張った故人でした。皆さまからの故人への生前のご厚情に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



2013年6月

8月26日、当社会長の小山蔚（しげる）が亡くなりました。享年92才の生涯でした。

15年前に息子の小山直が社長に就任して以降、経営には一切口を挟むことのない会長でした。体調を自己管理しながら毎日会社に足を運んで、ただ黙々と会社の環境整備に力を貸してくれていました。

その元氣な様子を、「会長ありがとう！」と最後にマルセイニュースでお伝えできたのも、振り返ってみると2013年が最後でした。以降、この4年間は病氣との闘いの日々でした。

多くを語る人ではありませんでしたが、確固たる自身の信念を持ちながらも、決してそれを誰かに押し付けたり強要するようなことがありませんでした。晩年も、いつも未来のことしか語りませんでしたね。それは病床にあっても同じでした。「今日は良くなったぞ」とやわらかく笑いながら、またきつと会社に行く、仕事をしたいという希望だけを最後まで話していました。それでも亡くなる数日前、初めて「直に全部託すから、よろしく頼む。」と遺言めいたことを口にして逝ったお父さん。長い間お疲れさまでした。いつもそとと、たくさん見守っていただきありがとうございます。

マックスこと嫁の様子



2010年8月。暑い最中でも、こうして黙々と草刈りをしていてくれました。



2012年7月環境整備の合間



2013年11月。消防の立ち入り検査前の準備

LPガス設備の「定期保安点検調査」  
ご協力ありがとうございます



安心してLPガスを使用していたため4年に一度の「定期保安点検調査」の実施が法律で義務付けられています。マルセイでは日高地区LPガス保安センターの保安業務員の方にお願ひして実施しています。ですが、お客様のご協力のおかげで点検調査は順調に進行しています。



ありがとうございます。点検調査をしていると、『ガス警報器』の電源を抜いているお客様がいらつしゃいます。この小さな『ガス警報器』は、事故を未然に防ぐためのサインを出す優れものです。どうか、コンセントから抜かないで下さいね。



寒くなる前に  
ご相談ください！



さて、秋になりましたが、今年の片付け仕事ははかどりましたか？  
実は、そういう私もまだまだ捨ててしまいたい布団や大型のゴミが残っています。物置の中も処分したいものでいっぱい！ 寒くなる前には何とかしたいですね。私と同じように、片付



けてしまいたいなあ…という思いの方はいらつしゃいませんか？  
冬が来る前に、小さな「断捨離」から始めてみましょう。分別が苦手な方には、別料金で分別のお手伝いもさせていただきます。ご相談ください！  
マックス





## 「灯油配送」は マルセイをご利用ください！

月日の過ぎるのは早いものですね。私たちの会社にピッカピカの中古車タンクローリー『ほのぼの号』を迎えたのは2年前のことでした。以降、マルセイの灯油定期配送を担っているのは、当社の若者たちです。どうぞ、これから迎える秋・冬の自家用灯油には「マルセイの灯油定期配送」をご利用下さいませよう、どうぞ宜しくお願いいたします！



9月21日から  
マルセイの41期  
新年度がスタート  
しました。当  
社を創業した会  
長を亡くしてから初めて迎  
える新年度です。

会長は近年入社した若  
者たちの成長と活躍をと  
ても喜んで見守っていまし  
た。残念ながらこの数年は  
ほとんど出社することがで  
きず、会う機会も少なく、  
一緒に仕事をすることも  
ありませんでした。

でも、「そうか。氣田くんた  
ち若い人たちが頑張ってく  
れているんだな。会社は  
安心だな。」と再び会社で  
仕事ができる日を目標に  
しながら、うれしそうに目  
を細めていたものです。

### 灯油の定期配送は マルセイを ご利用ください！

この冬も若者一人が皆さ  
まのお宅にお伺いします。  
マルセイでは、団地の3階  
4階にも灯油の配達をして  
います。定期配送も含め、  
灯油配送にはマルセイをご  
利用いただきますよう、よ  
ろしくお願いいたします。



## “タンク交換”はタイミングを逃さないで！ 脚部の劣化も「危険サイン」です

今月もホームタンクの交換工事をさせていただきました。当社の「無料タンク点検」の報告結果を受けて交換を決めて下さいました。

今年も夏季が終了しました。  
ストーブ分解整備をはじめ地  
道な作業ばかりですが、安心し  
て今度の冬を迎えられるよう  
にメンテナンスを進めています。

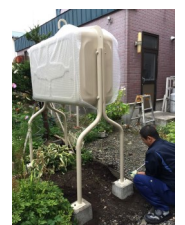
### 劣化の具合を見極めて 交換が必要か判断します



錆びて腐食した部分が剥離してきています。経年劣化の具合は目視だけでなく触って確認してみることも大切です。

脚部の腐食が進んで危険と  
判断したホームタンクの交換設  
置工事をしました。側面を見た  
目だけではわかりづらいので  
が、タンク底部の劣化も進んで  
いました。潮風による塩害も加  
わり、知らないうちに腐食が進  
んでいたりするものです。この  
タンクの場合も脚部と底部の  
劣化が進んでいました。

脚部の腐食が進んでいるタン  
クは地震があつたときの影響も  
心配ですね。ご使用中のタンク  
の状態が心配な方は、お気軽  
にご相談ください。まずは安全  
かどうかを確認をしましょう。



今ではほとんど若者たちだけで実施しているタンク交換工事ですが、この日は社長も同行して交換工事を実施しました。それにしても、力持ちの恭平くん！





# 『マルセイ』を創業した父が逝ってしまいました

## お父さん マルセイを創業してくれて ありがとうございました

しげる

去る8月26日、弊社の創業者でありわたしの父である小山 蔚が亡くなりました。92年の生涯でした。心臓と腎臓に病を抱え、10数年前に胃を切除してから会社に来て仕事をしていました。4年前に肺に悪性腫瘍が見つかったのですが、高齢でもあることから積極治療はせず、家で普通に暮らせる時間を大切にするを選びました。

2年前までは、病気を抱えながらも出社していましたが。最後の最後まで、もう一度会社に行つて働きたいと現場復帰を願っていた父でしたが、叶わぬまま家族に見守られながら息を引き取りました。会葬にあたっては地域のみなさまや取引先のみなさまに大変お世話になりました。あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

### 故 小山 蔚の略歴

こやま しげる

父の小山蔚は1926年(大正15年)2月25日、室蘭市に8人兄弟の二番目、長男として生まれてい

ます。当時の室蘭はとても活気があり、家は食堂を営んでいたと聞いています。室蘭武揚(ぶよう)高等小学校を卒業のち、昭和15年、15才で日鋼室蘭製作所鋳造工場に就職し、4年間そこで働きました。この日鋼室蘭時代の旧い友人が浦河に一人いて、晩年はよく二人で旅行していたのですが、この方が亡くなられた後は旅行に行くこともありませんでした。

昭和19年夏、陸軍に入隊しています。わたしは何の疑



いもなく、徴兵によって入隊したと思っていたのですが、今回、父の死後に叔父から聞いた話によると、父は志願して兵隊になったのでした。泳ぎが得意だった父は海軍の試験を受けたものの不合格となり、それならと乗馬も得意だったので騎馬隊を志願したところ見事合格となり、旭川に配属されたのだそうです。「志願して戦争に行つたことなど、一度も聞いたことがありませんでした。」



昭和20年8月、旧満州で終戦を迎えます。2年間、ロシアでの抑留生活のち帰国し、室蘭にもどり国鉄に就職しますが、政治活動が災いとなり昭和23年の秋に離職し、その年の暮れに浦河へと移ってきました。とこ

ろが浦河へやってきてすぐ肺結核と診断され、浦河診療所で2年間の療養生活を送ることになりました。この結核療養中に浦河診療所の看護士(むかしは看護婦と言っていましたね)、須田トシ子と知り合い昭和27年に結婚しています。わたしの母です。



昭和33年に浦河生活協同組合の理事に就任し、昭和52年に浦河生協が道央市民生協と合併するまで専務理事を務めていました。また、この昭和33年には長男の私が生まれています。昭和37年には、長女が生まれています。

わたしが生まれたときのこと、ちよつと面白いエピソードがあります。父が政治活動によって国鉄を離職したとき書きましたが、父の父(わたしの祖父)は明治



の人で、近所の若者が結婚すると、お祝いの品は天皇ご一家の写真という人だらしく、父は勘当同然の身として浦河に移ってきました。ところがその長男に男の子が生まれたと知り、かわいい孫(わたしです)の顔が見たくてたまらず、10年の勘当を解いて浦河に通うようになりました。

昭和52年に浦河生協理事を辞任後、家庭用燃料を販売する『マルセイ協同燃料株式会社』を、52才で設立しました。平成15年に長男の私が引き継ぐまで26年間同社の代表取締役社長をつとめ、退任以降は会長を務めていましたが、経営に一切口を挟むことなく、会社の敷地内の掃除や整備などを毎日楽しんでやってくれていました。最後まで私たちの仕事を陰ながら支えてくれました。





# 寡黙だった父との思い出

父の幼い頃の思い出と言えば、「自転車」と「料理」です。車の免許が無かったたのでいつも自転車でした。今のように入マートじゃない昔の自転車の前に私を乗せて、うしろに妹を抱いた母が乗り、家族3人を乗せて砂利道を漕いでいた父をよ

く憶えています。



わたしを抱いた若かりし日の父の写真です。父が驚くほど自分に似ています。親子ってすごいですね..

## 料理上手で家事全般をこなした大正生まれの父

また料理をよくわたしと妹に作ってくれました。看護士の母は夜勤が多かったたので、よく夕飯を作ってくれたのですが、なかなか美味しう飯でした。母の料理は減塩で子供には物足

りないこともあったたのですが、父の作る蕎麦や炒め物は「しょっぱくて」とても美味しかったのをわたしも妹もよく憶えています。



浦河小学校でしょうか？運動会のリレーで走る姿の父

料理だけでなく、若い頃から家事全般をなんでもしたと母から聞いています。今から50年以上も前の時代に、ご飯をつくり、こどものミルクをつくり、子供を背負いながら共同炊事場で洗濯をして干すことも平気でした。当時はかなり変わっていると思われたいやうですが、いっさい人のうわさを気につけないひとで、そういう「自分は自分だ」というところは終生かわらない人だったと思います。



2014年12/20 恭平くんと

わたしが大人になってからは、やはり会社を創業したことが印象に残っています。父はクルマの免許がありませんでしたから、53才で教習所に通い免許をとり、ガスと灯油を販売するための国家資格をとりました。日中は外で働きながら、1年の間に4つの国家試験を受けて合格しています。

「自分は戦前の小学校しか出ていないのでアルファベットがよくわからない。試験ではそれに苦労した。」と聞いたことがあります。よく勉強したものだなど、自分が50才を過ぎてから、その努力がわかるようになりませんでした。若い頃には分かりませんでした。50才を過ぎてから会



2015年1/1 孫と孫媳妇にて

社を興したというのは素晴らしいことだったなあと尊敬しています。

わたしが20代だった頃、会社の主力商品のひとつは石炭でした。ですから秋口から暮れにかけてはトラックに石炭を積んでお客さんのところに運び、今度トラックから降ろす作業を毎日していました。クルマを石炭小屋に横付けできないときは、竹で編んだカゴに石炭を入れて肩に担いで運ぶのですが、父は心臓を患うまでは若い者と一緒になって運んでくれました。これも自分が同じ年になってはじめて、あの頃の父はよくやっていたなあと分かるようになりました。

## 晩年は庭仕事も楽しんでいました



晩年の父は、幸せだったと思います。若い頃に誰も身寄りの無い浦河にやってきましたが、たくさんの仲間と出会い、近隣の方々のお世話になり、会社を興してからはお客様に支えていただきました。社長職を引退してからは若い人の仕事を支え、家では庭仕事をして、本当に幸せだったと思います。

とはいえ、晩年は病気との戦いの日々でもありました。長女



2015年2/26 日赤病院にて

(わたしの妹)が2年前に仕事を辞めて介護にあたり、今日まで母を支えながら、日赤病院の訪問看護スタッフのみなさんのお世話になることができました。7月末より浦河赤十字病院に入院していましたが退院かなわず、8月26日の朝、家族に見守られながら胸の悪性リンパ腫により息を引き取りました。

## 父の言葉を忘れずに取り組んでいきます

15年前社長を引き継いだとき父に、これだけは守れというような社訓はないかと訊ねました。そのとき父は即答してこう言いました。「うまい話には乗るな、だ」。この教えをどこまで守れてきたか、自分ではわかりませんが、この先も父のこの言葉を忘れずに会社経営に取り組みんでいこうと思っています。

小山直



最近読んだ本の中より…

# 『 THIS IS JAPAN—英国保育士が見た日本 』 ブレイディ みかこ(1965～) 著 発行 株式会社太田出版



「働け！」金髪の黒服の兄ちゃんが目をギラギラさせて叫んだ。「働け！」頭髪が薄くなったピンストライプのスーツのおっさんも怒鳴る。若いお嬢さんにしては不思議なほど静まりかえった目をしたAさんは、男たちの罵声を無視して通りをずんずん進んでいく。「働け！」とは何を意味するのだろうかとうわたしは思った。(本文より)

## 20年英国で暮らして 帰国した著者が見た 日本の今は

ブレイディみかこさんは、わたしの敬愛するライターです。ブログの愛読者です。先月号で紹介したO・ジョーンズも彼女を通じて知りました。パブル世代なのに貧困家庭に育ちますが、本書に面白いエピソードが書かれています。奨学金で進学した高校時代に、バイトをしていたことがバレーに担任に呼び出されたときのこと。理由をバスの定期代を稼ぐためだというと、「嘘をつくな。今どきそんな高校生がいるか！」と一喝されたといひます。確かににパブル期って、こんな感じでしたね。若い頃に中洲や六本木でホステスをして稼いだお金でイギリスへ。アイルランド人のダンブの運転手と結婚し、自身は保育士として働きながら20年英国で暮らしています。

本書は、昨年みかこさんが一ヶ月日本に帰国した折に訪ねた非正規労働者のユニオン(組合)、都内の保育所、路上生活者支援のNPOなどのルポリ見聞記です。冒頭に紹介したのは、みかこさんが非正規労働者ユニオンの人たちといっしょに上野のキャバクラへ、150万円もの未払い賃金を取り立てに出向いたときのこと

とを書いた文章です。元キャバクラ嬢のAさんに対し、他店の者もふくめ客引きの男性や年配の女性たちやボーイが一斉に「働け！」という罵声を浴びせることを、著者は不思議に思っています。なぜならAさんは働いてきたのだし、ワーカーとしては仲間ははずだからです。「彼らがユニオン一行を見る目は、説明しがたい暗さを帯びていた」と著者は書いています。著者が不思議に思う気持ちはわかりません。ですがわたしは普通の日本人として、「働け！」と罵声を浴びせる側の気持ちもよくわかります。Aさんはこの路地のキャバクラ共同体の「和」を乱したからです。またAさんよりちよつとだけ位が上の人たちは、自分たちはAさんに同調しないことを雇い主側に示さないとなりません。そして「お前はバカだからここでは働けない」と言って二十歳前後の女の子を囲い込み、時給にする400円くらいにしかならぬ給料で働かせ続けるような世の中を、さほど悪いとわたしたちが思っていないからです。著者は自分がホステスを辞めたときのことを、こう書いています。

## 貧乏人の娘だったが 日本が いい時代の 貧乏人の娘だった

著者があの時代の女の子は大事にされたらAさんに言うのと、彼女は今は全然違いますねと答えます。「わたしは貧乏人の娘だったが、いい時代の貧乏人の娘だったのだ。」と著者は思っています。

こうして20年ぶりに日本を体験したみかこさんは、かつての日本との違いや、同じ今でもイギリスと日本の労働者階級の人たちの考え方や振る舞いの違いを記していきます。それが深刻なテーマばかりを取り上げていのに、なぜか暗くない。文章とはホントに正直なもので、著者の前向きで腹の据わった性格が、セックス・ピストルズのジョン・ライドンに影響を受け単身でイギリスへ渡ったという男前の生き方が、文章の端々ににじみ出ています。自分と同じ貧乏な階層に生まれた者たちへの愛と叱咤(しった)が底流にあります。そういう著者の大ファンです。

社長

学校が変われば、地域が変わる。そして、社会が変わっていく

## みんなの学校 木村泰子氏 講演会

「みんながつくる みんなの学校～いつもいっしょがあたりまえ～」

大黒座上映決定!

9/30(土)～10/6(金)  
16:00～  
(\*この週は1回のみ)  
10/7(土)～10/20(金)  
①10:00～  
②13:30～  
③19:00～

日時 10月9日(月・祝) 17:00～  
場所 浦河町文化会館ふれあいホール(3階)  
参加 申込不要・参加費無料

実現させた元校長  
の木村泰子さんを  
お迎えします!

主催:ぼっかぼかの会、日高地方精神保険協会  
後援:浦河町、浦河町教育委員会







肉じゃがとサンマの刺身付きのサンマ定食



## ガスを使っておいしくクッキング

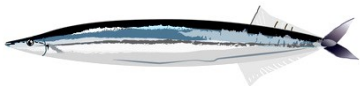
# ガスグリルで“さんまの塩焼き”

みんなで分けて食べてくれーと新鮮なサンマを届けてくれた寺澤さん。ごちそうさまです！“ガスグリルの達人”を目指す社長がグリル用調理道具の「ラ・クック」を使ってサンマの塩焼きに挑戦～♪結果は文句なしの★★★！！鮮度抜群だったサンマと「ラ・クック」が偉かった！（笑）



### ●材料（人数分）

- ・さんま
- ・塩



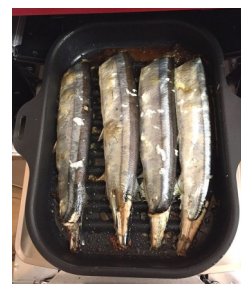
### 【グリル焼き時間】

上火→ 強火  
下火→ 強火  
12分～

### ●作り方 ガスグリルに調理道具「ラ・クック」を使用しました

【このレシピはグリルの予熱なしです】

- 1、サンマをの頭と尻尾を切り落として、ラ・クックに並べる。
- 2、塩を振って、ふたをしてグリルへ。
- 3、上下強火で12分セット → 焼き上がったからお皿へ^^



## 旬のさんまは「ガスグリルの燃焼力」で圧巻の☆☆☆！



「いただきまーす！」のすぐ後に、みんな開口いちばん「旨いっ！」の一言！社長が「ラ・クック」を使って初めて焼いてみたのですが、とってもおいしく焼きました♪身がふわふわに焼けて脂もつた旬のサンマが、とにかく美味しかった。フタをして焼きましたが、本当に煙は出ませんでしたね。焼き色もちゃんとしていました。フタを外して、もう少しだけ加熱しておいしそうな焼き色を加える工夫をしていた社長。ふむふむ、なかなかやるじゃないですか☆

「ふるさん。そうだよね。」  
「でも、大根おろしも頑張ったんだぞ！」と自分の頑張りも強調していた社長でしたよ。

ところで、調理道具の「ラ・クック」ですが、おいしく焼けるだけではありません。本当にうれしいのが後片付けが簡単なこと！サンマの脂が落ちるのは「ラ・クック」の中なので、写真でお分かりいただけるように、グリルの中は全然汚れませんで！うーん。これって、すごくないでしょうか？



色々便利な使い方ができる「ラ・クック」。また勉強します！



今シーズン初の“サンマの刺身”。あまりのおいしさに黙々と食べて大喜びだった男性たち♪



食後の片付けはみんな協力して一斉に^^ 指もおろした？社長でした(笑)





社長のちょっと長いコラム



敗れざる者たち

わたしが中学・高校生のころ、一年に何度か父は札幌に出張してました。クルマの免許を持っていない父の出張は、たいてい列車でした。そんな時いつもわたしは、本を買ってきてもらってました。当時、浦河には二軒の書店があり、けっこうな品揃えで日本や海外の古典はだいたい手に入るのができました。それでも都会の本屋と同じというわけにはいなくて、父の出張の機会をつかまえては本を頼み、父はかなりの高率で、わたしの頼んだ本を買ってきてくれました。亡くなった今にして初めて思うのですが、どうやっていつも頼んだ本を買って帰ってきたものだったのでしょうか。簡単に探せた場合もあるでしょう。が、見つからなくて何軒も歩いたこともあったと思います。どの本屋に寄っていたものなのか、聞いたことがありません。「探すのに苦労した」とも、「おかげで他の用事が足せなかった」と言われたこともありませんでした。子どものために歩いたんだらうなあと、亡くなって初めてそんなことに思い至ります。



買ってきた本で覚えてるのが何冊かありますが、忘れたのが石原慎太郎の『化石の森』です。青嵐会を結成して意気軒昂だった慎太郎は父とは正反対の政治信条でしたが、父は何にも言わずにこの本を買ってきてくれました。わたしはこの本を、夢中になって読みました。もうひとり頼んだのを憶えている作家がいます。沢木耕太郎です。ただ、沢木さんの本の何だったかまでは、はっきりと思いません。『人の砂漠』と『敗れざる者たち』だとは思いますが、違ったかも知れません。

まだ駆け出しの沢木さんがラジオの深夜放送で話すのを聞いて、この人の書いたものを読みたいなあと思えました。最初に読んだのは『人の砂漠』でした。世の中の片隅や辺境で人生を送る、あるいは亡くなった人たちの記録は田舎の高校生には強烈な印象を残しました。沢木さんがルポライターと名乗っていた頃です。『敗れざる者たち』は沢木さんの若いころの代表作で、これも夢中になって読みました。数日前ふと手にとつてボクサー輪島功一の章を読み始めたら、止まらなくなりました。チャンピオンから陥落した輪島の、柳才斗とのリターンマッチ。重量級としては前代未聞の打ち合いとなった試合で、輪島はいよいよ柳を追い詰める。沢木さんはこう書いています。「柳の足がつかない。もはや後ろに下がると足がないのだ。柳は打たれながら、打たれることを覚悟で踏み

とどまると、渾身の力をふりしぼって、大きく凄まじい右のフックを放った。」「柳を支えていたのは、自分はチャンピオンである、というただそれだけの思いだった。寝れば楽になる。寝れば楽になる。だが、チャンピオンはそう簡単に寝るわけにはいかないのだ。」「勝ったはずの輪島功一も、まるで地獄から生還したかのような顔をしている。リングの上でマイクに「これが日本魂です！」と叫ぶ声が、まるで泣き声である。・」



読みながら最期を迎えつつあった父をどうしても思い出してしまいました。父は病床で最期まで頑張りました。悪性リンパ種が見つかってから四年の間ずっと、もう一回現場に復帰すると言っていました。亡くなるほんの少し前まで「仕事したいなあ」と言っていました。ある意味では、あきらめが悪かった。正直、そのことに苛立ったこともあります。けれども勝つ見込みのない勝負を最後まで捨てない父を間近に見ていると、自分もいろんなことを簡単にあきらめないで、地べたにへばり付いても生きて働いていきたいなあと思えました。父からもらった「無粋」の血を心から誇りとして、しぶとく生きて、充実した毎日を過ごしたいと思っています。病には勝てなかったけど、父も「敗れざる者たち」の一人でした。

さのばわふる日記



私がマルセイに勤めて丸15年が過ぎました。会社にはいつも会長（私）はお父さんと呼んでいたもので、以後、お父さんと書かせていただきますがいました。

お父さんは、いつも黙々と会社の倉庫や物置など敷地内を片付けたら、草刈りをしてくれたりと常に私達が仕事をしやすい様に環境整備を担当してくれていました。お陰で会社はいつも綺麗でした。ここ2年ほど入社することが少なくなり、倉庫は雑然として草は伸び放題。その光景を見るたびに、「あー、いつもはお父さんが綺麗にしてくれていたのにな。あれもこれもお父さんがやってくれたんだなあ」と目につくことがたくさんありました。多くを語らずともお父さんが作業する姿にたくさん教わることもありました。何度かケガや病気で入院しても、不死身だと思わせるように復活していたお父さんでした。これも見習わなくては！

最後に会社に顔を出してくれたのが確か4月の中旬でした。お茶を飲んで「また来る」と言ってくれたのですが、不死身なお父さんも92歳の高齢と病には勝てなかった。でもお父さん「あっぱれ」です！最後に

お父さんに会いに行った時に、「若い子二人も頑張っているし、みんな頑張るから会社は大丈夫だからね。」と伝えると、もう返事をするのが出来なかったお父さんでした。が、しっかりと大きく頷いてくれました。



縁の下の力持ちとなり会社を守ってくれていたお父さん。これからは私たちが守ります。今度は空から見守っていて下さいね。お父さん、本当にありがとうございました。

発行 株式会社 マルセイ  
灯油・プロパンガス販売・機器修理  
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業  
冬季期間（10月～3月） 定休日：日曜・祝祭日 営業時間 8:30～6:00 土曜3:00



編集 おはなし家（マックス） 発行部数 3500部  
【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com  
【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください  
〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3  
TEL 0146-22-5123